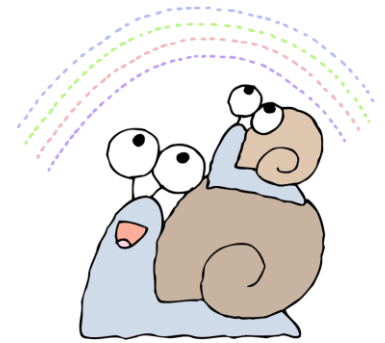


水無月（みなづき）

先日の学習参観では、多くの保護者の皆様にご来校いただき、ありがとうございました。また、本日の音楽発表会壮行会は、学校評議員の皆様にも見ていただくことができました。お忙しい中お時間を作ってくださり感謝いたします。子供たちは参観していただけることを励みに、いつも以上に張り切って学習や発表に取り組んでいました。頑張る様子を応援していただけるのはとてもうれしく、身近な方々からの励ましの言葉は子供たちの意欲につながります。学校でも子供たちのよいところを認め、たくさん賞賛し伸ばしていきたいと思っています。ご家庭でも子供が学校の話をしたときには、ぜひ「頑張っているね」とほめてあげてください。



さて、6月も半ばを過ぎました。気温が30度近くなる日もありますが、梅雨はこれからといったところでしょうか。6月は「水無月」とも言われます。梅雨で雨の季節なのに水が無い月というのは不思議です。しかし、和風月名は旧暦での呼び名ですので、現在の季節感とは1～2か月ほどずれがあります。つまり旧暦の水無月は現在の7月頃ということです。厳しい暑さが続く時期で、水が枯れ尽きて無くなるという意味で「水無し月」と呼ばれたという説があります。それとは逆に、田に水を張る月という意味で「水の月」という説や、「な」を「鳴」として水の音が鳴り響く月と考え、水の力が新たな事物を生み出す月という説もあるそうです。さらに、田植えという大仕事を終えて、皆やり尽くしたという意味の「皆仕尽（みなしつき）」が転じて水無月になったというのもあります。由来がいくつもあり、解釈が大きく異なっているのがおもしろいですね。

また「古今和歌集」には、凡河内躬恒（おおしこうちのみつね）の歌で水無月に詠んだものがあります。

みな月のつごもりの日よめる（水無月6月の終わりの日に詠んだ歌）

夏と秋と行きかふそらのかよひぢは（夏と秋とが行き来してすれ違う空の通り道は）
かたへすずしき風やふくらむ（片側は涼しい秋の風が吹いているのだろうか）

最近、熱中症になるのではないかというような暑い日が続いたかと思うと、急に大雨が降り登下校は大丈夫かと思う日もあり、心配が尽きません。そんな中でこの歌を読むと、旧暦との季節の違いや現在までの気候の変動などを考えたり、空を眺めて歌を詠んでいる人を思い浮かべたりして、大変興味深く感じます。